

第2期 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

第6次日田市総合計画第2期基本計画 重点施策

(令和2年度～5年度)

令和2年3月策定
令和3年3月改訂
令和4年3月改訂
令和5年3月改訂

大分県日田市

目 次

1.まち・ひと・しごと創生総合戦略の趣旨	1
2.日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ	1
3.第2期日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間	1
4.第2期日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進	1
5.第2期基本計画における重点施策【基本目標】	2
【具体的な施策】市内での雇用の定着に向けた取組	3
【具体的な施策】子育てに関する環境や支援の充実	5
【具体的な施策】移住・定住に向けた取組	7
【具体的な施策】まちづくり活動への支援	9

1. まち・ひと・しごと創生総合戦略の趣旨

国は、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への過度な人口集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目的に、平成 26 年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、同年 12 月には国の人口の将来像を示す「長期ビジョン」とその実現に向けた平成 27 年から 5 年間の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

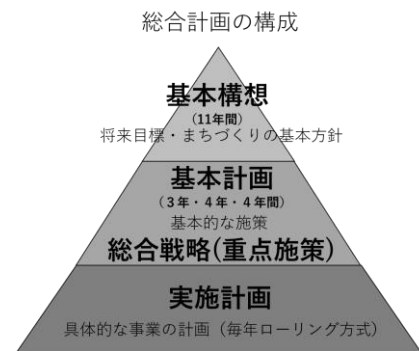
令和元年度でこの計画が終了することから、国は、第 2 期総合戦略を策定し、引き続き、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への過度な人口集中の是正に努めていくこととしています。

本市においても、平成 27 年度に策定した「日田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」に掲げる 2060 年に 5 万人規模の人口を維持することを目的に、同年度に「日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「日田市における安定した雇用を創出する」「日田市への新しい人の流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「人が共に支え合い、安全・安心で快適に暮らせる地域を創る」の 4 つの基本目標の達成に向け、様々な取り組みを行ってきました。しかしながら、人口減少の抑制には至っていないことから、引き続き「第 2 期日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、この課題に対応していくこととします。

2. 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

第 1 期日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、4 つの基本目標に基づき、様々な角度から人口減少に対応するために網羅的に施策の展開を図ったことから、本市の最上位計画である日田市総合計画との差別化や、目指すべき目標が複数あることにより、市全体で統一した意識を持つことの難しさなど、いくつかの課題がありました。

このため、第 2 期日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略については、第 6 次日田市総合計画第 2 期基本計画の重点施策として位置づけることで、総合計画と総合戦略の 1 本化を図るとともに、これまでの第 1 期総合戦略の 4 つの基本目標については、基本的には総合計画の各施策の中で推進していくこととして、第 2 期総合戦略には継承せず、計画期間内において重点的にやるべき施策を絞り、基本目標として新たに定めることとします。



3. 第 2 期日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間

令和 2 (2020)年度～令和 5 (2023)年度【4 年間】

4. 第 2 期日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進

人口減少の抑制に向け今後 4 年間で重点的に行うべき事項は、市民と行政が、ネットワークを形成しながら強固に連携し、協力し合うことが重要です。このため、これまでの第 1 期総合戦略では、行政が推進していく内容を主体として記載していましたが、第 2 期総合戦略においては、総合戦略の中に行政と民間等が相互に推進していく内容を記載することで連携を図り、毎年の進捗管理を行いながら計画期間内の目標の達成を目指していきます。

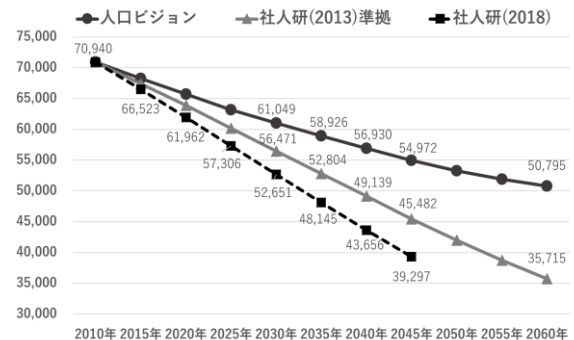
5.第2期基本計画における重点施策

(第2期 日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略)

第6次日田市総合計画の基本構想で示す日田市の将来像を実現するためには、各種の施策を効率的かつ効果的に推進することが必要となります。このため、第2期基本計画では、本市の喫緊の課題である人口減少問題に関するものを重点施策と定め、特に連携した取組を進めるとともに、この施策を本市の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」として定めるものとします。

本市の人口は、昭和30(1955)年の99,948人をピークに減少しており、国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」)が平成25(2013)年に公表した人口推計を準拠した国のデータでは、2040年の人口は49,139人と平成22(2010)年の国勢調査人口70,940人と比較し、21,801人、30.7%の減少が見込まれています。

このため、平成28(2016)年2月に、まち・ひと・しごと創生法に基づき日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第1期総合戦略)を策定し、平成27(2015)年から令和元(2019)年の5年間において人口減少を抑制する様々な施策に取り組み、2060年における総人口を5万人規模とすることを目指してきました。



第1期総合戦略では、「日田市における安定した雇用を創出する」「日田市への新しい人の流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「人が共に支え合い、安全・安心で快適に暮らせる地域を創る」の4つの基本目標を立て、その目標の達成に取り組んできましたが、平成30(2018)年に社人研が公表した人口推計「社人研2018」では、平成25(2013)年の人口推計「社人研2013」と比較すると人口減少はさらに進むとされています。

また、現状の本市の人口は、令和元(2019)年10月1日時点で62,944人と「社人研2018」の人口推計に沿った形で推移していることから、人口減少の抑制には至っていない状況であり、人口ビジョンとの間にはかい離が見受けられます。

しかしながら、人口ビジョンは策定からまだ4年が経過したところであることから改訂は行わず、引き続き2060年における5万人規模の人口維持に向けて第2期総合戦略を策定し、人口減少対策に取り組んでいきます。また、第2期総合戦略については、市の最上位計画である総合計画における重点施策として位置づけることで一本化し、今後4年間で重点的に取り組むべき施策を絞り、対策を講じていくこととします。

第1期総合戦略では、人口目標を達成するために、出生数を増やすとともに、転出者を減らし、転入者を増やすため、様々な取り組みを網羅的に行ってきましたが、これまでの取り組みから、人口減少の抑制のためにはUターンによる転入数の増加を推し進めることが効果的であるため、第2期総合戦略については、特に人口減少の最大の課題である20代後半から40代前半の人口減少の対策に注力し、就労や子育て等によるUターンの促進に向けた若者の定住支援に取り組んでいきます。

【基本目標】

若い世代が住み続けたいと思うふるさと日田を創る

効果	K P I	指標名	基準値	目標値
			(H30年度)	令和5年度
		25歳から44歳の社会減の抑制	△131人	△100人

【基本目標】若い世代が住み続けたいと思うふるさと日田を創る

効果	K P I	指標名	基準値	目標値
			(H30年度)	令和5年度
		25歳から44歳の社会減の抑制	△131人	△100人

【具体的な施策】市内での雇用の定着に向けた取組

近年では、しごとを含めた暮らしを重視する傾向にあることから、行政、民間団体等が一体となって市内企業における働き方改革を推進し、働く場としての魅力の向上を図るとともに、起業や創業などの多様なライフスタイルに応じた柔軟な働き方の実現に取り組み、若い世代の雇用の定着を図る。また、市の就職支援サイトや大分県が福岡市に設置しているUIJターン支援拠点などを活用し、市内企業の情報発信を行うことで潜在的な地域人材の発掘や市外からの人材確保に取り組む。

成果	K P I	指標名	基準値	目標値
			(H30年度)	令和5年度
		労働環境に対する満足度（満足・やや満足） 【雇用労働実態調査より】	【令和2年度数値】 72.48%	75.00%
		市内企業の有給休暇平均取得日数 【雇用労働実態調査より】	【令和2年度数値】 9.3日	11日
		ジョブカフェおおいた日田サテライト登録者の 市内企業への就職者数	60人	70人
		“ひたふる”の登録者数【40歳未満】 ※年度末時点	713人	8,000人
		イクボス宣言を行った企業	1社	5社
		日田市ビジネスサポートセンターの支援による 創業者数【40歳未満】	10人	10人

【アクションプラン】 ★は地方創生推進交付金事業

単位：千円

活動	事業名	事業概要	R2 予算	R3 予算	R4 予算	R5 予算
	1	雇用労働実態調査事業	市内の事業所や勤労者の実態を把握し、勤労者福祉の充実や各事業所の企業活力の増進に向けた施策を講じるもの。	339	—	—
2	ふるさと市民制度構築事業	市内企業の基本情報・求人情報等をSNS等で直接届ける就職支援サイトを運営するもの。	864	864	851	251
3	ワーク・ライフ・バランス推進事業	育児休業等を盛り込んだ就業規則を策定した小規模事業所に対し助成を行うなど、市内企業のワーク・ライフ・バランスの普及・促進を図るもの。	200	500	500	700

	事業名	事業概要	R2 予算	R3 予算	R4 予算	R5 予算
活動	4 ★ ビジネスサポートセンター運営事業	ビジネスサポートセンターにおいて、既存事業者や創業希望者の相談・支援をワンストップで行うとともに、創業後の事業継続に対する支援などを行うもの。	23,379	25,522	25,115	25,423
	5 ★ 女性起業家創出促進事業	交流会やワークショップ等を開催し、起業や今後の事業展開を考えている女性を支援するもの。	2,183	—	—	—
	6 ★ ひたで働く魅力発信事業	大分県が福岡市に設置しているUIJターン支援拠点を活用したイベント等により、市内企業や日田市での働き方などの情報発信を行い、UIJターン就業を促すもの。	—	3,063	3,060	3,209

<関連する総合計画の主な施策>

福祉 (3) 子ども・子育て支援の推進

- ① 幼児期における教育・保育施設の充実
- ② 地域における子ども・子育て支援の充実
- ③ 子育て世帯への経済的な支援
- ④ 子ども・子育て支援関連施策の推進

(4) 障がい者（児）福祉の充実

- ① 障がい者（児）の自立と社会参加および地域での交流の促進

(5) 高齢者福祉の充実

- ④ 介護サービスの質の向上と介護サービス基盤の整備

産業振興 (1) 農業・水産業の振興

- ③ 地域を支える担い手の育成

(2) 林業の振興

- ⑤ 市民の森林・林業・木材産業への理解促進、担い手の確保育成

(3) 商工業の振興

- ① 経営基盤の安定強化
- ② 中小企業の活用による地域内の経済循環の創出
- ③ 経営の拡大及び新分野への進出の促進
- ④ 創業の促進
- ⑤ 人材の育成・確保と事業環境の整備
- ⑥ 企業誘致の推進

【基本目標】若い世代が住み続けたいと思うふるさと日田を創る

効果	K P I	指標名	基準値	目標値
			(H30年度)	令和5年度
		25歳から44歳の社会減の抑制	△131人	△100人

【具体的な施策】子育てに関する環境や支援の充実

近年、核家族化の進行や地域におけるコミュニティ意識の希薄化、また、家庭を担ってきた女性の社会進出などにより、子どもや子育て家庭を取り巻く環境は大きく変化していることから、保護者の抱える、家庭や育児に関する様々な不安の解消を図るため、子育て世代が気軽に相談でき、本市において安心して子どもを産み育てられるよう総合的な支援体制等の環境整備に取り組む。

また、少子化が急速に進展していることから、若い世代が安心して子どもを産み、育てることができるよう、子育て世代の経済的負担の更なる軽減を図る。

成果	K P I	指標名	基準値	目標値
			(H30年度)	令和5年度
		母子健康手帳発行数（総数）	421件	420件
		母子健康手帳発行数（第2子以降）	251件	250件

【アクションプラン】

単位：千円

活動	事業名		事業概要	R2 予算	R3 予算	R4 予算	R5 予算
	1	総合的な子ども支援拠点創設事業			782	660	147
2	子ども・子育て支援給付事業 公立保育施設民間委託事業 公立保育園管理費	子育てを行う家庭の経済的負担を軽減するため、0歳から2歳の第1子の保育料を無償化することで、0歳から5歳までの保育料を完全無償化するもの。	—	—	—	87,505 ※歳入歳出の影響額	

<関連する総合計画の主な施策>

市民協働 (1) 市民協働のまちづくり

④ 移住・定住への支援

福祉 (3) 子ども・子育て支援の推進

① 幼児期における教育・保育施設の充実

② 地域における子ども・子育て支援の充実

③ 子育て世帯への経済的な支援

④ 子ども・子育て支援関連施策の推進

(4) 障がい者（児）福祉の充実

① 障がい者（児）の自立と社会参加及び地域での交流の促進

② 障がい保健福祉サービスの充実

③ 相談支援体制の充実

産業振興 (3) 商工業の振興

⑤ 人材の育成・確保と事業環境の整備

教育・文化 (1) 学校教育の充実

① 子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の充実

④ 教育環境の整備

⑤ 家庭・地域と協働した学校づくりの推進

【基本目標】若い世代が住み続けたいと思うふるさと日田を創る

効果	K P I	指標名	基準値	目標値
			(H30年度)	令和5年度
		25歳から44歳の社会減の抑制	△131人	△100人

【具体的な施策】移住・定住に向けた取組

活気あふれるまちであるためには、若い世代の移住を推進し定住へとつなげる取組が必要であることから、日田市の魅力や移住に関する情報を積極的に発信し、移住しやすい環境を整えるための支援を行うとともに、移住後も安心して暮らせるように、交流会等による人と人との繋がりを構築する場を提供する。

成果	K P I	指標名	基準値	目標値
			(H30年度)	令和5年度
		移住支援策を活用した移住者の数に含まれる25歳から44歳までの割合	47.44%	50.00%

【アクションプラン】

単位：千円

活動	事業名		事業概要	R2 予算	R3 予算	R4 予算	R5 予算
	1	2					
	1	定住促進補助事業	移住奨励品の支給、空き家バンクによる移住支援等を行い、移住・定住人口の増加を目指すもの。	38,598	17,257	17,749	18,786
	2	ひた暮らしPR事業	移住希望者へのひたの魅力発信や移住者と地域を繋ぐ取組を行い、移住・定住促進と地域活性化を図る。	—	8,427	8,066	8,566

<関連する総合計画の主な施策>

市民協働 (1) 市民協働のまちづくり

④ 移住・定住への支援

福祉 (3) 子ども・子育て支援の推進

① 幼児期における教育・保育施設の充実

② 地域における子ども・子育て支援の充実

③ 子育て世帯への経済的な支援

④ 子ども・子育て支援関連施策の推進

(5) 高齢者福祉の充実

④ 介護サービスの質の向上と介護サービス基盤の整備

産業振興 (1) 農業・水産業の振興

③ 地域を支える担い手の育成

(2) 林業の振興

⑤ 市民の森林・林業・木材産業への理解促進、担い手の確保育成

(3) 商工業の振興

④ 創業の促進

⑤ 人材の育成・確保と事業環境の整備

⑥ 企業誘致の推進

(4) 観光の振興

③ 効果的な情報発信体制の構築

教育・文化 (1) 学校教育の充実

④ 教育環境の整備

(4) スポーツ・レクリエーションの振興

③ スポーツによる交流人口の増加

【基本目標】若い世代が住み続けたいと思うふるさと日田を創る

効果	K P I	指標名	基準値	目標値
			(H30年度)	令和5年度
		25歳から44歳の社会減の抑制	△131人	△100人

【具体的な施策】まちづくり活動への支援

若年層における福岡都市圏等の大都市への流出が進んでいる中、日田市での生活を楽しみ、日田に住むことを誇れるよう、“ほしい暮らし”や“住みたいまち”の実現に向けた、若い世代が主体的に行うまちづくり活動を支援する。

成果	K P I	指標名	基準値	目標値
			(H30年度)	令和5年度
		20～40代のうち、自治会やまちづくり団体などによる地域での活動が盛んなまちだと思ふ人の割合【市民意識調査より】	57.4%	【令和4年度数値】 60.0%
		まちづくり活動推進事業補助金【若者チャレンジ枠】活用団体数	5件	8件

【アクションプラン】

単位：千円

活動	事業名	事業概要	R2 予算	R3 予算	R4 予算	R5 予算
	1	まちづくり活動推進事業	市民活動団体を対象に、地域活性化のために主体的に企画・実行する事業に対し補助するもの。	1,442	3,500	3,676
2	自治基本条例推進事業（市民まちづくり集会）	市民協働のまちづくりを推進するため、市民意識の醸成と人材育成を目的に市民まちづくり集会を開催するもの。	0	861	348	518
3	市民活動人材育成事業	“住みたいまち”の実現に向けて行動したい人を対象にした連続講座を開催することで、実践する大切さを学んでいただき、行動する市民を育成していく。	—	1,395	1,438	1,680

<関連する総合計画の主な施策>

- 市民協働** （1）市民協働のまちづくり
① まちづくり活動の促進

